

【理念】

「愛し愛される病院」

【基本指針】

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

ごあいさつ

青葉若葉が目鮮やかな、初夏の香りを感じる季節となりましたが、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

早いもので、平成28年度が始まり2カ月が経とうとしております。

春になり、杉並リハビリテーション病院にも、新しい仲間として新入職員15名を迎え、新たな気持ちでスタートいたしました。

また、4月には、保険医療機関としてのルールである診療報酬制度の改定があり、当院のような回復期リハビリテーション病院に対しても厳しい改定が行われました。

制度に対応すべく取り組んでいる中で再確認できたことは、リハビリテーションの専門病院として、当院がこれまで長年取り組んできた、脳血管疾患や整形疾患などの該当疾患で、リハビリテーションを必要とされている患者様に対して、家庭復帰を目標とした質の高いリハビリテーションを集中的に提供できる病院であるよう、精一杯頑張りを続けることです。

制度が変化して、制度対応していく必要はもちろんです、根本として取り組むものは変わらないのだと思います。

これからも杉並リハビリテーション病院職員一同、この気持ちを忘れず、「愛し愛される病院」になるべく取り組んで参りたいと思います。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

事務長 とみなが 富永 ともみ 智己

入院窓口から

整形疾患患者さまの相談状況

平成 27 年度入院の整形疾患患者さまは、脳血管疾患に次ぐ第 2 位 41%を占めました(表 1)。平成 27 年度入院相談においても 42%でした(表 2)。整形疾患の原因の多くが高齢者の転倒・骨折であり認知症や低栄養・骨粗鬆症との関連が高いと言われます。

そこで直近 4 ヶ月の入院相談 265 名(脳血管 133、整形 118、廃用 14)について調べたところ 61 名 23%に認知症(紹介元医療機関の申告による)を認めました。厚生労働省発表『認知症の全国有病率推定値』15%と比べかなり高い割合です。さらに、疾患別(表 3)で見ると脳血管疾患を超え整形疾患が 40 名で第 1 位(66%)、その 40 名の年齢別(表 4)では 80 代が第 1 位(75%)です。

当院では、認知症の有無に関わらず、整形疾患患者さまの再転倒防止など安全管理に努めています。一日も早く住み慣れた環境へ戻れるよう急性期からの相談を早期に頂き、手術日から 2～4 週以内での入院受入れが行えることを目標として参ります。

地域連携室 主任 廣川 里美

表1 【27年度年間入院数】

脳血管	255名	56%
整形	189名	41%
廃用	12名	3%
合計	456名	100%

表2 【27年度年間入院相談数】

脳血管	467名	52%
整形	380名	42%
廃用	39名	4%
その他	9名	1%
合計	895名	100%

表3【入院相談(認知症)疾患別割合】

脳血管	14名	23%
整形	40名	66%
廃用	7名	11%
合計	61名	100%

表4 【整形40名の年齢別割合】

60代	0名	0%
70代	2名	5%
80代	30名	75%
90代	8名	20%
合計	40名	100%

整形疾患患者さまのリハビリテーションを通して

当院へ入院される整形疾患患者さまは 80 代の方が多く、心疾患・脳血管障害等の既往や認知症を合併されていることが少なくありません。そのため整形疾患の場合、一般には理学療法士(以下、PT)が主に介入しますが、当院では可能な限り作業療法士(以下、OT)も一緒に担当として介入しています。OT が介入する事で、退院後の生活に円滑に戻る事ができる様、骨折部位に気をつけた靴下やズボンの履き方といった着替え動作、洗体や跨ぐ入浴動作等の生活動作や家事動作の提案・指導、福祉用具や家屋改修の提案、また趣味や特技を生かした作業活動を通して認知機能の賦活を行う事もその目的です。



▲ADLキッチンを活用した調理訓練はOT介入により可能となるリハビリ



▲浴室での訓練の様子。入浴動作はOTが担当して指導していく。

また、認知機能が低下している場合、入院による環境変化で落ち着きがなくなり適応出来ず、日付や何処に居るのがわからなくなってしまいう見当識障害等があらわれ、その結果認知機能の低下が早まる事もあります。その為、早期に慣れた環境であるご自宅に退院できるよう、今後も PT・OT といった当院スタッフだけでなく、ケアマネジャー等、退院後関わる方々とも協力し合いながら、リハビリテーションの提供に努めていきたいと考えています。



リハビリテーション科 係長 宮坂 祐規(作業療法士)

平成27年度・東京都脳卒中医療連携協議会講演会

去る3月10日（木）に当院が東京都から委託を受け運営している東京都脳卒中医療連携推進事業の区西部二次保健医療圏（杉並区・中野区・新宿区）圏域別検討会における医療従事者対象の講演会を中野区の『コングレスクエア中野』にて開催いたしました。

今回は『高次脳機能障害の家族が望むこと』の演題で、『日々コウジ中』の著者でイラストレーター、「高次脳機能障害コウジ村」代表の柴本礼さんにご講演いただき、医療・介護連携の要となるケアマネジャーを中心とした約60名の医療従事者がつめかけ、講演会場は満員御礼となりました。



▲門脇親寿院長と柴本礼さん

柴本さんは、2004年にご主人がくも膜下出血を発症され高次脳機能障害となり、その後のご家族（特に一番身近な夫婦）にしかわからない体験をイラスト入りでご講演。経済的な問題や就労に至るまで、また社会の高次脳機能障害者を見る目など、医療従事者としては直接的にかかわれない領域のお話に、参加者は新鮮な感覚で聞き入っておりました。

高次脳機能障害は、いつ・誰がなってもおかしくない障害であり、その障害を乗り越える鍵は「家庭円満」であること、また常に「ユーモア」を忘れないで！と語られたことが非常に印象的でありました。

おおよま のりお
総務課 課長 大山 徳郎



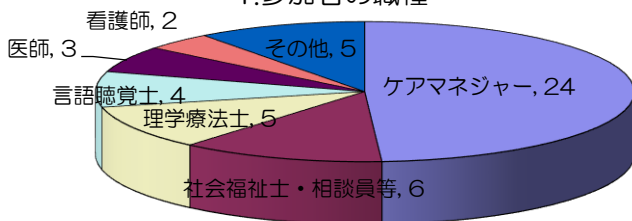
柴本礼さんが代表をされる「高次脳機能障害コウジ村」は現在会員70名の高次脳機能障害の家族会。

この障害を描いたコミックエッセイ『日々コウジ中』、『続・日々コウジ中』（主婦の友社）を是非ご一読ください。

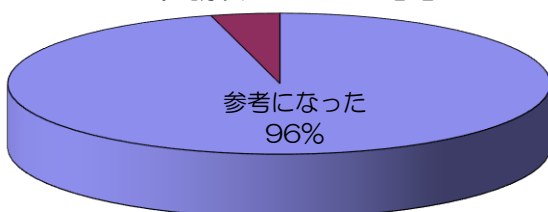


アンケート集計結果

1. 参加者の職種



2. 講演についての感想



アンケートコメントより

- 高次脳機能障害のある方とご家族の抱える様々な問題を知ることが出来、大変勉強になった。（医師）
- 患者さん目線の看護、家族にも目を向けて話を聞いていく姿勢で業務にあたりたい。（看護師）
- 在宅に戻ったご家族の支援という目線も忘れずに係っていきたい。（社会福祉士ら）
- ご家族を支えることが、患者本人を支えることになると思った。（ケアマネ）
- 臨床心理士や家族会の必要性を組織に訴えていきたい。（理学療法士）

◆ 平成28年1月～4月入院患者数と紹介元医療機関

1月から4月の4か月間における新入院患者は133名、遠方の回復期リハビリテーション病棟より転入院2名、紹介元医療機関は以下の通りです。(敬称略)

大久保病院、荻窪病院、樺島病院、河北総合病院、北原国際病院、杏林大学医学部付属病院、久我山病院、慶應義塾大学病院、恵寿総合病院、公立昭和病院、国立国際医療研究センター病院、坂戸中央病院、佐々総合病院、至誠会第二病院、順天堂大学医学部附属練馬病院、心臓血管研究所付属病院、聖隷佐倉市民病院、立川相互病院、田中脳神経外科病院、東海大学八王子病院、東京医療センター、東京衛生病院、東京共済病院、東京警察病院、東京女子医科大学病院、東京山手メディカルセンター、都立神経病院、都立多摩総合医療センター、都立墨東病院、西東京中央総合病院、練馬総合病院、練馬光が丘病院、花と森の東京病院、春山記念病院、碑文谷病院、府中恵仁会病院、府中病院(大阪府)、松戸市立病院、三宿病院、三鷹中央病院、武蔵野赤十字病院、山中病院、山梨リハビリテーション病院、立正佼成会附属佼成病院

以上、44か所 ご紹介ありがとうございました。

～当院の現況～

	平成28年 2月	平成28年 3月	平成28年 4月
ベッド稼働率	99.0%	98.8%	99.7%
入院延べ患者数	2,941人	3,142人	3,055人

在宅復帰率(直近3ヶ月)…93.7%

重症患者割合(直近6ヶ月)…32.0%

重症患者回復病棟改善割合(直近6ヶ月)…44.5%

※日常生活機能評価で10点以上の新規患者割合
※重症患者のうち4点以上改善している者の割合

交通のご案内



■JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 徒歩2分



医療法人社団 瑞心会

杉並リハビリテーション病院

内科・リハビリテーション科

〒167-0042

東京都杉並区西荻北 2-5-5

TEL:03-3396-3181 (代)



編集後記

今年度の当院のスローガンは『先見』です。記事にあるように当院の入院患者さまは年間で約6割が脳血管疾患ですが、毎年6～9月にかけては脳血管疾患と整形疾患の割合が五分五分となります。今号はそんな夏場をみすえた整形疾患へのリハビリテーションの紹介です。参考にさせていただいたら幸いです。

(編集委員)

- 発行 行：杉並リハビリテーション病院
- 発行責任者：門 脇 親 房
- 編集 集：総 務 課

<http://suginami-reha-tokyo.jp/>

♪3月15日にHPをリニューアル致しました♪



日本医療機能評価機構
認定第 JC1614号

